

# 環境経営レポート



(2020 年 10 月～2021 年 9 月)



2021 年 12 月 27 日



**ヨシムラ環境整備株式会社**

## 1. 組織の概要

(1) 事業者名：ヨシムラ環境整備株式会社

(2) 代表者：代表取締役 吉村 学

(3) 設立：昭和 55 年（1980 年）10 月 1 日

(4) 資本金：320 万円

(5) 所在地：

本社・工場：広島市安佐北区安佐町大字久地字堀切山 10625 番地 10 他

(6) 事業内容：

産業廃棄物収集運搬業, 産業廃棄物中間処理業, 一般貨物自動車運送事業

(7) 事業の規模

①売上高および工事件数等

項 目		単 位	2020 年度
売上高		百万円	161
産業廃棄物処理量	収集・運搬	トン	1832
	中間処理	トン	1743

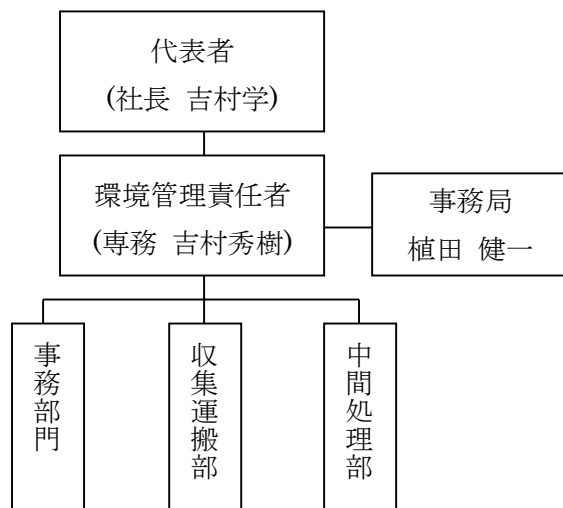
(注) 事業年度：10 月～翌年 9 月（エコアクション 21 運用年度も同じ）

②従業員数：9 人

③床面積：本社事務所 29 m<sup>2</sup>、工場・作業所等 1802 m<sup>2</sup>

(8) 連絡先：環境管理責任者 吉村 秀樹（TEL:082-837-1841）

(9) 組織図



### 役割・責任・権限

#### ○代表者

- ・ EA21 システムの統括
- ・ 環境経営方針の策定
- ・ 実施体制の構築
- ・ 全体の評価と見直し

#### ○環境管理責任者

- ・ EA21 システムの構築・運用
- ・ 上記用状況の代表者への報告

#### ○事務局

- ・ 環境管理責任者の補佐

#### ○各部門長

- ・ 各部門に関連する活動計画の実行等 EA21 システムの統括

#### ○従業員

- ・ 環境経営方針や各自の役割を理解し、環境活動に取り組む

## 2. 対象範囲（認証登録範囲）

全組織・全活動を対象範囲とします。

## 3. 環境経営方針

本業である廃棄物処理を適正かつ安全に行うとともに、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

### 1. 環境影響に配慮した事業活動の継続的改善

①電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。

②中間処理業務における再資源化率の向上に努めます。

③節水、グリーン購入に努めます。

### 2. 法規則等の遵守

事業に関係する諸法令、規則、地域協定を順守し廃棄物の適正処理に努めます。

制定日： 2015 年 1 月 20 日

改定日： 2020 年 10 月 1 日

代表取締役社長 吉村 学

#### 4. 環境経営目標、環境経営計画、環境経営目標の実績

##### (1) 環境経営目標

環境への負荷の自己チェックの結果などを踏まえ、「環境経営目標」を以下のとおり定めました。

また取扱量の増減による電気及び化石燃料使用量の変動に伴う二酸化炭素排出量の増減に対応するため、当該項目において取扱量の単位あたりの目標値を設定することとします。

目標設定表

項 目		2021 年度	2022 年度	2022 年度
電気使用量の削減 [基準：5.610 kwh/t]		△4% 5.386 kwh/t	△5% 5.330 kwh/t	△6% 5.273 kwh/t
化石燃料 使用量の 削減	ガソリン [基準：3.338 ℓ/t]	△4% 3.204 ℓ/t	△5% 3.171 ℓ/t	△6% 3.138 ℓ/t
	軽油(処分業) [基準：4.271 ℓ/t]	△1% 4.228 ℓ/t	△2% 4.186 ℓ/t	△3% 4.143 ℓ/t
	軽油(収運業) [基準：26.479 ℓ/t]	△4% 25.420 ℓ/t	△5% 25.155 ℓ/t	△6% 24.890 ℓ/t
電気及び化石燃料使用に伴う 二酸化炭素排出量の削減 [基準：85.316kg-CO2/t]		△4% 81.903kg-CO2/t	△5% 81.050kg-CO2/t	△6% 80.197kg-CO2/t
再資源化率の向上 [基準：72%]		80%	82%	84%
節水 [基準：65 m <sup>3</sup> ]		△4% 62 m <sup>3</sup>	△6% 61 m <sup>3</sup>	△8% 59 m <sup>3</sup>
グリーン購入の推進		5 品目以上	5 品目以上	5 品目以上

(注) 1. 電気使用量削減の基準値は 2017 年度同期間の実績値を同年中間処理量 (=1,724.4589t) で除した値、化石燃料使用量(軽油(処分業)を除く)の削減基準値は 2017 年度実績値を同年収集運搬量 (=1,584.1295t) で除した値、節水の基準値は 2017 年度実績値とした。軽油(処分業)は 2020 年度同期間の実績値を同年中間処理量 (=1,743.6626t) で除した値とした。なお「電気及び化石燃料使用に伴う二酸化炭素排出量の削減」の目標値算出は、下記[表 1]の通りとした。

2. 一般廃棄物は、排出量が少ないことから削減目標は設定していないが、分別等の取組は徹底することとしています。
3. 化学物質は使用していません。

【表 1】基準年（2017 年度）における二酸化炭素排出量の原単位評価指標の設定

基準年：2017 年度	実数	原単位指標
電気からの二酸化炭素排出量 (Kg-CO2) ※	6, 469. 899	3. 75184
中間処理量 (t)	1, 724. 4589	
化石燃料からの二酸化炭素排出量 (Kg-CO2)	129, 207. 819	81. 56392
収集運搬処理量 (t)	1, 584. 1295	
□二酸化炭素排出量の総量 (Kg-CO2)	135, 678	85. 316

※中国電力の 2017 年度排出係数 0. 677 kg-CO2/kWh を用いて設定した。

(2) 2020 年度の環境目標達成状況

項 目		単 位	目 標 値	実 績	評価
電気使用量の削減		Kwh/t	5.442	7.411	×
化石燃料使用量の削減	灯油	ℓ/t	1.683	0.177	○
	ガソリン		3.238	4.063	×
	軽油		25.685	25.458	○
電気及び化石燃料使用に伴う二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub> /t	82.757	80.543	○
再資源化率の向上		%	78	70	×
節水		m <sup>3</sup>	63	117	×
グリーン購入の推進			5 品目以上	5 品目	○

上記、電気及び化石燃料使用に伴う二酸化炭素排出量実績は、80.483kg-CO<sub>2</sub>/t となり、目標値 82.757kg-CO<sub>2</sub>/t に対し、97.25%との結果となった。(購入電力の二酸化炭素排出係数は、中国電力の 2017 年度の調整後排出係数 0.677kg-CO<sub>2</sub>/kwh を使用した。) また、実績値の算出については下記[表 2]を参照の事。

【表 2】各項目の原単位評価指標への変換

2020 年度	実数	原単位指標
(a) 電気からの二酸化炭素排出量 (Kg-CO <sub>2</sub> )	8,748.87	(a)/(b)=
(b) 中間処理量 (t)	1,743.6626	(A) 5.01752 (Kg-CO <sub>2</sub> /t)
(c) 化石燃料からの二酸化炭素排出量 (Kg-CO <sub>2</sub> )	138,421.58	(c)/(d)=
(d) 収集運搬処理量 (t)	1,832.7775	(C) 75.52557 (Kg-CO <sub>2</sub> /t)
□二酸化炭素排出量の総量 (Kg-CO <sub>2</sub> )	147,170.45	(A)+(C)=80.54309 (Kg-CO <sub>2</sub> /t)
(e) 電気使用量 (kwh)	12,923	(e)/(b)=7.41141 (kWh/t)
(f) 灯油使用量 (ℓ)	308	(f)/(b)=0.17663 (ℓ/t)
(g) ガソリン使用量 (ℓ)	7,446.10	(g)/(d)=4.06274 (ℓ/t)
(h) 軽油使用量 (ℓ)	46,658.80	(h)/(d)=25.45797 (ℓ/t)

## 5. 主要な環境活動計画の内容と取り組み結果の評価、次年度の取組内容

環境目標の項目毎の環境活動計画の内容と取り組み結果の評価を以下に示します。

### (1) 電気使用量の削減

今年度も目標達成出来なかった。

今年度後半、屋外照明を全て LED に更新した。次年度以降の電気使用量削減に期待したい。また、引き続き使用頻度の少ない電気製品のコンセントを抜くなど細かい節電を社員全員心がける。

更に今年度、動力式破砕機を廃止して新たにエンジン式破砕機を導入した。これも電気使用量の削減につなげたい。

### (2) 化石燃料使用量の削減

① 化石燃料の使用に伴う二酸化炭素排出量は、2020 年度実績で全体の 94.055%を占めるため、その削減は重要課題と考える。

② 灯油を使用する重機は廃止した。

③ ガソリンを使用する営業車を低燃費車(ハイブリット)に更新したが、目標達成には至らなかった。

更なる効率的な営業ルートを計画・実行して、ガソリン使用量を削減したい。

④ 軽油に関しては目標達成出来た。引き続きエコドライブを心掛けて CO2 削減に貢献したい。

### (3) 産業廃棄物再資源化の徹底

目標を 8 ポイント下回る結果となった。しかし前年度と比較すると 18 ポイント上昇している。今年度新たに導入した破砕設備で処理する事により、リサイクル受け入れ先の基準を満たす品質に加工できた。次年度は更なる再資源化率の向上に期待できる。

### (4) 節水

破砕設備の粉じん対策(ミスト)で使用量が大幅に増加したため、目標を達成出来なかった。

次年度は水量調整するなど工夫して節水を心掛ける。

### (5) グリーン購入の推進

目標値は達成した。引き続きグリーン購入に取り組むこととする。

## (6) その他の活動

会社周辺の清掃活動の実施や、一般社団法人広島県資源循環協会の取組への参加（\*新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり一部活動を自粛）、敷地内の自然環境観察などをしております。

### 《具体的な活動内容の一例》

【施設公開「ひろしまの風」一社広島県資源循環協会】

[illegible]

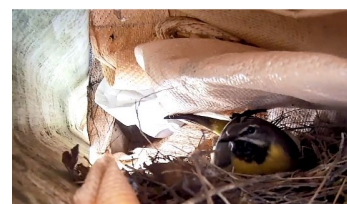
## 【初任ドライバー教育】



### 【会社敷地内自然環境観察】

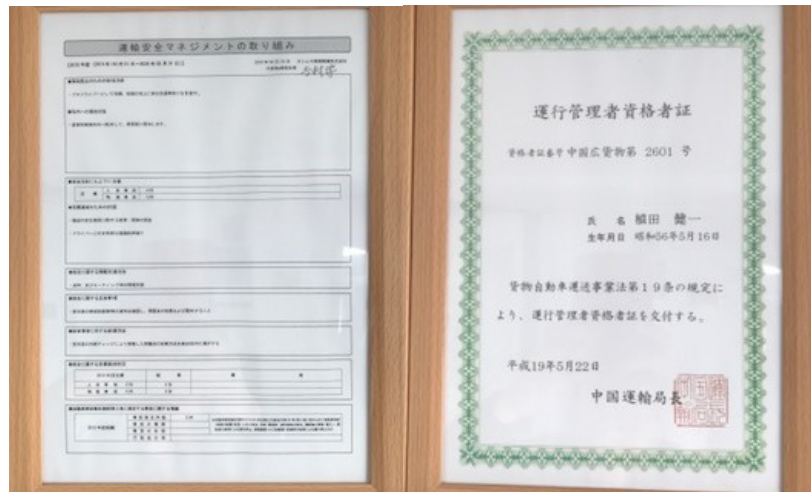


### 【車両日常点検風景】





## 【事務所内掲示物】



(運輸マネジメントの取り組み) (運行管理者資格者証)



(車両運行管理レポート)

## 【産廃収集運搬車両 兼 一般貨物自動車運送事業登録車両】



(産廃収集運搬車両表示)



(小型移動式クレーンダンプ仕様)



(小型移動式クレーン仕様)

## 6. 環境関連法規制等の遵守状況

適用される主な環境関連法規制は廃棄物処理法です。遵守評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。また、過去3年間、当局からの違反の指摘や訴訟もありませんでした。

## 7. 代表者による全体評価と見直しの結果

廃棄物の再資源化率、軽油使用量等、前年度と比べても大きく前進したとは言えない数値だが、作業効率や安全性、経費とのバランスは大変向上したと考える。

コロナ禍による受入物の偏り(再資源化困難物の増加)により再資源化率は横ばいだが、今年度以降は新型破砕機を効率的に運用し、再資源化率及び費用対効果の向上を進めていく。

## 8. 廃棄物処理業に関する情報

### (1) 許可の内容

#### ①一般廃棄物

なし

#### ②産業廃棄物

##### a 許可品目

許可品目	収集運搬業(上段:許可年月日 下段:有効年月日)						処分業
	広島市	広島県	山口県	岡山県	島根県	鳥取県	広島市
	2018/10/12 2025/10/11	2018/11/24 2025/11/23	2019/10/13 2026/10/12	2018/10/1 2025/9/30	2018/9/5 2025/9/4	2018/9/1 2025/8/31	2016/10/27 2023/10/26
燃え殻	○	○	○				
汚泥	○	○	○	○	○	○	
廃油	◎	○	○	○	○	○	
廃酸	○	○	○				
廃アルカリ	○	○	○				
廃プラ類	◎	○	○	○	○	○	○
紙くず	◎	○	○	○	○	○	○
木くず	◎	○	○	○	○	○	○
繊維くず	◎	○	○	○	○	○	○
ゴムくず	◎	○	○	○	○	○	○
金属くず	◎	○	○	○	○	○	○
ガラスくず等	◎	○	○	○	○	○	○
がれき類	◎	○	○	○	○	○	

○: 積替保管を含まない

◎: 積替保管を含む

##### b 許可番号

管轄	許可の種類	許可番号
広島市	産業廃棄物収集運搬業(優良)	07310010149
	産業廃棄物中間処理業(優良)	07320010149
広島県	産業廃棄物収集運搬業(優良)	03409010149
山口県	産業廃棄物収集運搬業(優良)	03500010149
岡山県	産業廃棄物収集運搬業(優良)	03301010149
島根県	産業廃棄物収集運搬業(優良)	03200010149
鳥取県	産業廃棄物収集運搬業(優良)	03104010149

##### c 事業の区分

産業廃棄物収集運搬業

産業廃棄物中間処理業 中間処理(破碎)

一般貨物自動車運送事業

(2) 施設等の状況

①設備概要

車両台数

車種	台数	備 考
8t脱着装置付コンテナ車	2 台	
8tクレーン付ダンプ車	1 台	
3t脱着装置付コンテナ車	1 台	
3tクレーン付パワーゲート車	1 台	18年度増車
3tパワーゲート車	2 台	20年度増車
1.5tパワーゲート車	1 台	21年度減車予定
合 計	8 台	なお別途営業車両1台あり

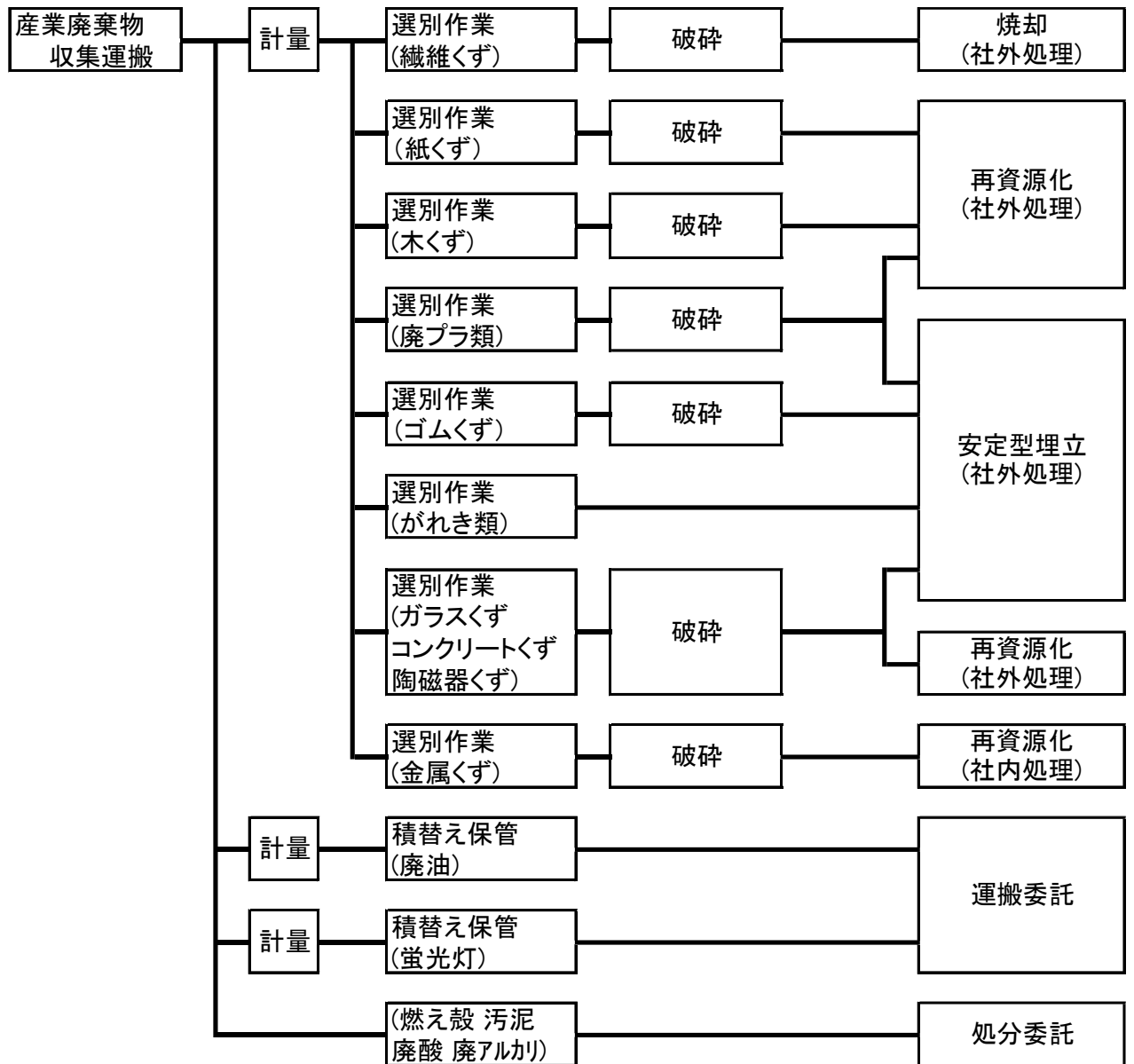
主要設備

名称	台数	備考
2軸せん断破砕機	1 基	20年度更新
40tトラックスケール	1 基	
2tフォークリフト	2 台	20年度減車
0.25m <sup>3</sup> バックホウ	3 台	

積み替え保管施設

名称	保管面積	保管上限量	備考
ヨシムラ環境整備(株)	64.15 m <sup>2</sup>	95.84 m <sup>3</sup>	

処理工程図



(注) 処理能力は、廃プラスチック類 4.83t/日、紙くず 4.21t/日、木くず 4.86t/日、繊維くず 2.81t/日、ゴムくず 4.60t/日、金属くず 4.83t/日、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず 4.61t/日 (8H)

(3) 処理実績

② 受託した産業廃棄物の処理量

2020年度 (2020年10月 ～2021年9月)

処理方法等		廃棄物等種類	処分方法等	処理量(t)
( i )収集運搬		コンクリートくず		0.93
		廃油		24.85
		金属くず		776.098
		ガラス陶磁器くず		2.71
		紙くず		32.736
		廃プラ類		793.6645
		木くず		115.945
		繊維くず		0
		ゴムくず		0
		がれき類		81.91
		燃えがら		0
		汚泥		0
		廃酸		0
		廃アルカリ		0.35
		石綿含有廃棄物		0.41
		水銀使用製品産業廃棄物		3.174
収集運搬量合計				1832.7775
( ii )中間処理		コンクリートくず	破砕	1.93
		金属くず	破砕	799.6238
		紙くず	破砕	20.421
		廃プラ類	破砕	805.6328
		木くず	破砕	116.055
		繊維くず		0
		ゴムくず		0
	うち 再資源化等	金属くず		799.6238
		廃プラ類		276.67
		コンクリートくず		0
		紙くず		20.421
		木くず		116.055
再資源化等量小計				1212.7698
中間処理合計				1743.6626
( iii )最終処分				0
				0
				0
最終処分量合計				0
( iv )中間処理後の産業廃棄物	最終処分	廃プラ類		528.9628
		コンクリートくず		1.93
		ゴムくず		0
		繊維くず		0
	再資源化等	金属くず		799.6238
		廃プラ類		276.67
		コンクリートくず		0
		紙くず		20.421
		木くず		116.055
	再資源化等量小計			
中間処理後処分量合計				1743.6626